



誰もが安心して暮らせる地域社会

舞鶴市民生児童委員連盟会長 山下 廣幸さん

舞鶴市では283人の民生児童委員が地域の皆さんの最も身近な福祉の相談役として活動されています。今年は民生委員制度創設100周年。市内でも12月16日に記念大会が行われます（29ページ関連記事）。今回は、舞鶴市民生児童委員連盟会長の山下廣幸さんに民生児童委員の活動などについてお話を伺いました。

民生児童委員の活動

民生児童委員は厚生労働大臣から委嘱を受けたボランティアで、地域の皆さんの最も身近な福祉の相談役として活動しています。住民の生活状況を把握したり相談や悩みを聞く。そして必要な福祉サービスにつなげるのが主な役目です。

各地域ごとで高齢者のお宅を訪問する見守り活動や生後3か月の赤ちゃんがいるお宅を主任児童委員と訪問し生活のサポートも行っていきます。ほかにも高齢者の集いや子育てサロンを各協議会で独自に開いたり、地域で行っているサロンにも参加して地域との関わりを積極的に持つようになっています。

また、平成20年からは災害時要援護者の登録を行っています。これは災害時に自分で避難できない人を登録することで、いざというときに逃げ遅れがないよう災害時に自分で避難することができない人を登録するものです。市では独自に登録された方の個別支援計画を作って、要援護者を誰がどうやって

て支援するかを細かく決めています。情報の更新は大変ですが、地域の皆さんの安心につながればと思っています。

今年も、民生委員制度ができて一〇〇周年の年です。12月16日に総合文化会館で開催する記念大会では、福祉に関わる講演会もあるので皆さんぜひ来てみてください。

就任した当初の出来事

平成22年12月に民生委員になり今年で7年目になります。自治会長を務めた後に自治会からの推薦でこの役割に就きました。当時は制度のことが全く分からなくてすごく大変でした。就任早々には、高齢の方が転倒されたと近所の人から電話がありました。救急を拒否されたり食事を取られなかった様子だったので、状況を聞いたときにどうしたらよいか分からず、また、あいにく市外にいたので向かうことができませんでした。頭が真っ白になってしまいました。その時は地域包括支援センターに対応してもらったのを覚えています。

最初は不安でしんどかったのですが、民

生児童委員連盟などが行う研修に参加することで知識が一つずつ身に付いていきました。また前任の方に教えてもらったり、ほかの委員さんと相談しながら活動が続け、今は相談者の悩みが少しでも解決に向かいそうになったときに「やりがい」を感じ、「ありがとう」と言ってもらえたときはすごくうれしいです。勉強して自分の能力を高めることが地域の福祉の向上につながると思っています。

背伸びをせずに役割を果たしたい

座右の銘は「寛裕は仁の作なり」。広い心を持つためには思いやりの心が大切です。若いときから何かと世話役を引き受けることがあったのですが、やはり自分の気質がこの教えに合っていると感じています。民生委員の仕事も広い心と思いやりを持って、背伸びしないよう役割を果たしたいと思っています。

私生活では、剪定にはまっています。自宅の植木を剪定します。夏場はいい汗がかけますし、夢中になれるので良いストレス解消法になっています。

まいづる 花図鑑



vol. 135

本州（宮城県・新潟県以西）・四国・九州の暖帯に生える雌雄異株の常緑高木。高さは10～15メートル、葉は長さ6～18センチメートルの長楕円形。なめらかなやわらかい光沢がある。本の葉脈がよく自立し、裏は灰白色。若葉は黄褐色の毛に覆われるが成長するとなくなる。秋遅く、葉腋に黄褐色の小さな花を密生して付け、果実は1年後に赤く熟すので雌株では1本の木で花と実を同時に見ることが可能。

名前の由来は葉の裏が白くてツブツブ（タマゴ）に似ているから。

【協力】瓜生勝朗

市文化財保護委員（植物分野）



シロダモ
(クスノキ科)

※雌雄異株…雄花と雌花を別々の株（個体）につけること

見ごろ 10～12月頃

